

岩手県職労

月2回刊=1641号
2024年1月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所
盛岡市内丸10番1号
岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所
盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジロー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

2024 自治労県本部春闘討論集会

「参加する春闘」で

賃金・職場課題の改善を!!

1月20日、県本部春闘討論集会が盛岡市内で開催され、県職労から32人が参加した。集会では、春闘は、民間の労働組合が産業別にまとまり賃金等の労働条件改善交渉を行うもの。公務員労働者も一緒になって取り組み、労働者全体の賃金の底上げを実現させる必要があることを共有。そのうえで、23確定闘争から続く継続課題と職場実態の改善に向けて春闘から要求交渉を進めていくことを意思統一した。



▲自治労県本部2024春闘討論集会の様子

開会に当たり、伊藤県本部委員長が「上部団体加盟がない単組はラスパイレス指数(国の平均給与を100とした場合の自治体の給与組もう」とあいさつ。与指数のことが低い傾向があり、そもそも組合がないところはさらに低い。自治労の力は大きい。組合員の結集で2024春闘を取り組もう」とあいさつ。基調講演として、自治労本部伊藤書記長が「職場からの24春闘・なんで春闘取り組むなや」と題して講演。働く条件は労働組合が強いければ労働者に有利に、労働組合が弱ければ労働者に不利に決まる。何もしなければ、勝手に決められる。だからこそ、組合員がきちんと結集し、粘り強く要求し続けることが重要。参加する春闘、支えあう基本権を意識



▲講演する伊藤功自治労本部書記長

県職労分科会

県職労分科会では、拡大中央闘争委員会・支部代表者会議を開催し、春闘要求は、はじめ当面する諸課題について討論した。

春闘要求書

春闘要求書は、春闘アンケートの結果(裏面参照)

県職連合第35回・県職労第131回臨時大会
日時 2024年3月2日(土) 13時
場所 盛岡市勤労福祉会館5階大ホール

③新採用加入対策

23新採用未加入者に対し、1~2月を重点期間と位置づけ、教宣物の配布や学習会の開催により必ず1度は声掛けをし、加入促進に取り組みよう各支部に対し要請した。24新採用加入対策に向けては、各支部での加入促進対策会議の開催などについて意思統一をはかった。

②フレックスタイム・勤務

1月から対象者を拡充し試行がスタートした。当局は、3月に実施予定の全職員を対象にしたアンケート調査により検証を行うとしており、県職労としても検証に関わり、安易な本格実施への移行とならないよう、取り組みを確認した。

長年の活躍に感謝

先輩組合員への説明会を開催

1月19日、盛岡市・エスポワールいわてにおいて、総務事務センターが開催した「ゆうゆうライフプランセミナー」終了後、セミナーに出席した2024年3月末退職予定の組合員・準組合員を対象として、県職労本部主催の「先輩組合員への説明会」を開催した。



▲挨拶する野中靖志特別中央執行委員(右)

冒頭、野中靖志特別中央執行委員(盛岡市議会議員)が、「皆様と同一年であるが、皆様に支えていただいていた立場があることに感謝する」とあいさつした。その後、小田嶋中央執行委員長が「皆様が新採用の頃の1982年、4週5休制導入と引きかえに夏季休暇(職専免)を廃止する当局

明した。その後、藤村書記次長から、定年再任用短時間勤務職員となった場合における県職労加入と、県職労総合共済制度における退職者及び再任用職員等を対象とした「準組合員乙」への加入について説明した。説明会終了後は、懇親会に移行し、各参加者からは、組合への加入のきっかけ、これまで組合で取り組んできた諸課題にどう向き合ってきたか、昨今の職場課題について県職労の取組に何を期待するか等、様々な話題で交流を深めながら、これまでの苦労をねぎらった。

能登半島地震による災害支援カンパ

御協力ありがとうございました

災害派遣に係る労働条件は、その都度人事課に確認しています。
労働条件をめぐる課題は、県職労に随時お知らせ願います。

第五世代

今、様々なものが世代交代の時期にきている。その中でも「第五世代」へと移り変わっているものに、戦闘機がある▼F-35戦闘機。しばらく前から世間を賑わせている第五世代戦闘機だ。兵器というものは、世代が異なれば、その戦力差は極めて大きくなる。アメリカのF-22およびF-35、ロシアのSu-57、中国のJ-20等、各国が第五世代戦闘機を続々と開発・配備する中、十分な抑止力を確保するためには、我が国でも第五世代戦闘機の配備が必要になる。そのため、航空自衛隊ではF-35戦闘機の配備を進めている。だが、世代が新しくなれば、その更新・運用のコストは増加する傾向にある。そのため、外交によって国際緊張を解き、軍事に多くのコストを割かなくてよい世界を作っていくことも大切だ▼職場環境も同様に、時代に合わせてシステムや労働条件を更新していくことは必須だ。だが、それが労働条件の改善につながるには限らない。労働者を取り巻く環境が時代に合わせ変わっていく中、どのようなシステムや労働条件を目指すべきか、仲間たちで情報を共有し、議論を深めていくべきだろう。

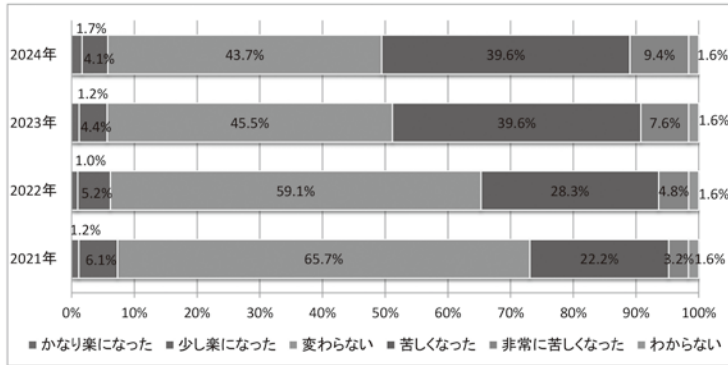
自治労県本部2024春闘アンケート

「県職労」集計結果

①生活の変化

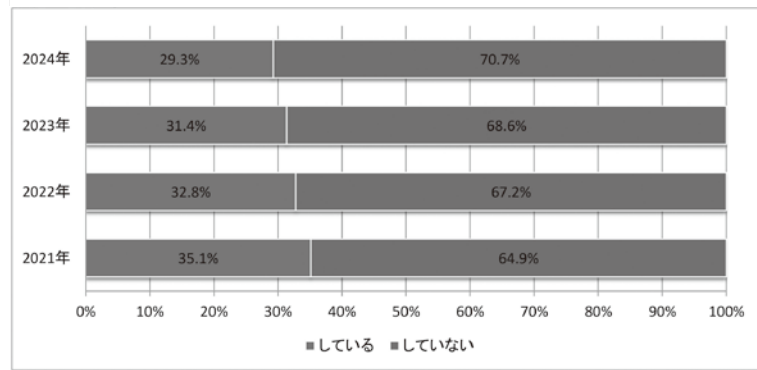
Q5 昨年と比較して、あなたの生活実態は

「非常に苦しくなった」9.4% (+1.8)、「苦しくなった」39.6% (±0.0) が合わせて49.0% (+1.8)。「変わらない」43.7% (-1.8)。2023確定闘争で、月例給・一時金共に全世代で引上げ改善となるも、若年層に重点を置いた配分。昨今の物価高騰の影響から、全世代で生活実態は依然厳しい。2024春闘では生活防衛の観点から、一層の賃金水準改善が不可欠だ。



Q12 あなたはサービス残業をしていますか

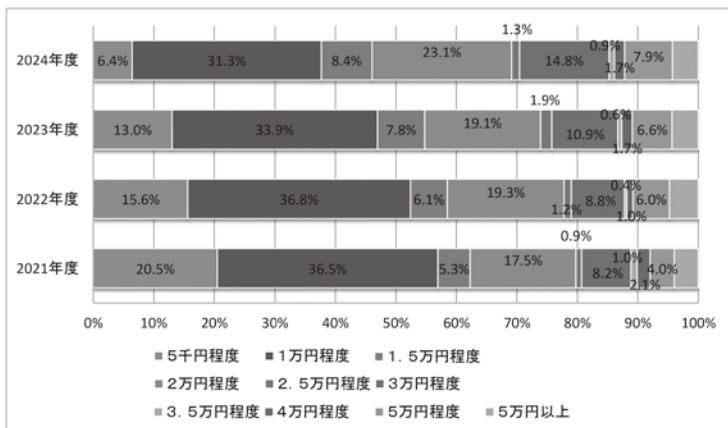
サービス残業を「している」が29.3% (-2.1)となり、サービス残業の実態は減少傾向にある。しかしながら、サービス残業を強いられる職場が存在することは問題である。サービス残業撲滅のためには、サービス残業しない職員の意識に加えて、職場実態点検と超勤手当全額支給のための取り組み強化が必要だ。



②春闘要求額

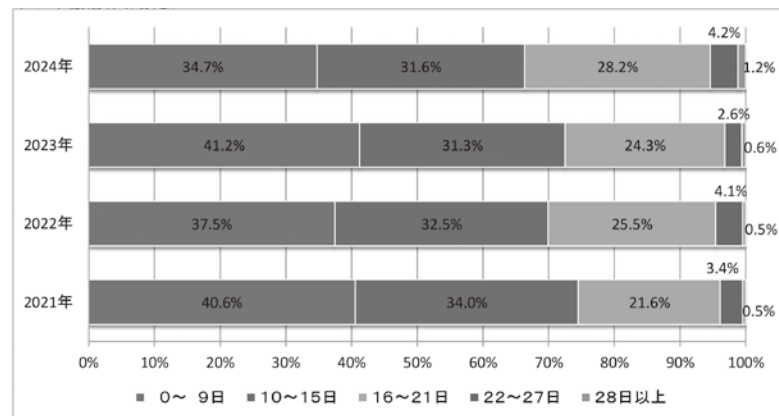
Q6 あなたの2024賃金要求額は

県職労全体の賃金要求額「中央値」は18,420円(前年比+4,102円)。県本部全体の春闘アンケート結果(18,374円)も踏まえ、県職労として19,000円以上の賃上げを要求する。県当局・人事委員会は、昨今の物価高騰にも耐えられるよう、組合員が要求する額での賃金改善を行うべきだ。



Q15 あなたが1月～12月に使用した年次有給休暇は何日ですか

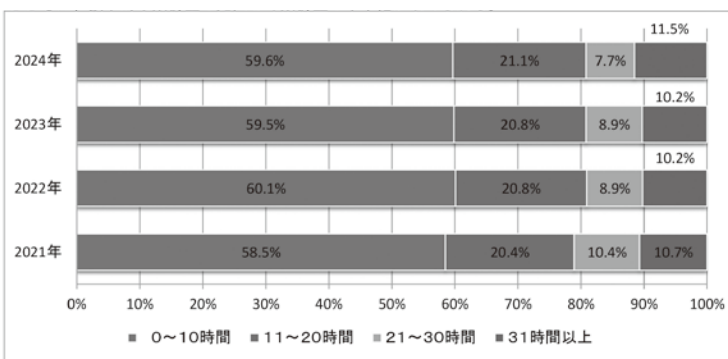
年5日間の年次休暇取得が努力義務とされているが、依然として十分に休暇を取得できていない実態もある。業務量の多さに加え、周囲も忙しすぎて休みたくても休めない状況もあるようだ。年次休暇を取得できる環境であるか点検するとともに、休暇取得できる職場づくりに向けた管理職のマネジメント強化も重要だ。



③職場・労働実態(超勤・年休)

Q11 あなたの平均時間外勤務は月何時間ぐらいですか

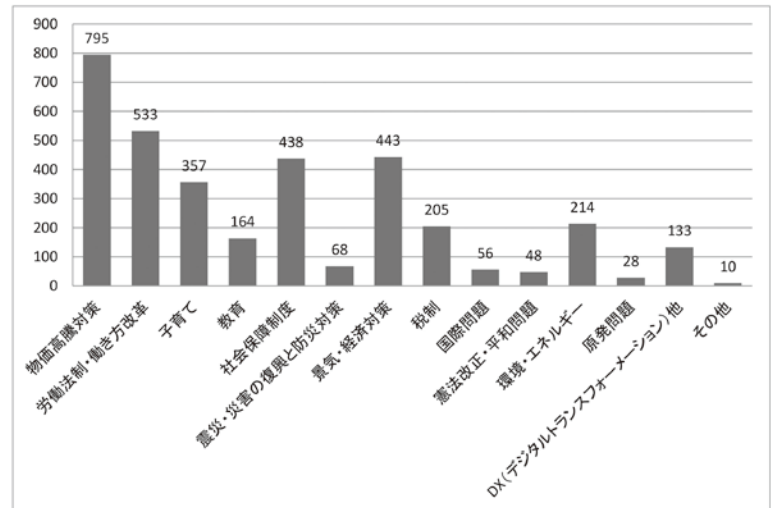
「0～10時間」が59.6% (+0.1)と全体の6割弱を占める一方、「31時間以上」11.5% (+1.3)と、時間外勤務は依然として常態化し、職員間の格差も拡大している。人員要求に継続的に取り組むとともに、抜本的な業務量の見直しや業務量の標準化が求められる。



④制度政策要求

Q17 あなたが次の政策のうち何に関心がありますか(3つまで)

組合員が関心を持っている制度政策要求は、「物価高騰対策」795人(22.8%)、「労働法制・働き方改革」533人(15.3%)、「景気・経済対策」443人(12.7%)が上位で、自身の生活に関わる身近な政策に関心が集まっている。一方で、国際問題、憲法改正・平和問題、原発問題などは依然として関心が低い。課題に向き合える学習会等の機会を意図的に設けていく必要がある。



2024 旗開き
各支部で旗開きが開催され、2024年の運動前進に向けて意思統一をはかった。当面する春闘勝利に向けて全力で取り組もう。
Includes photos of branch meetings for: 胆江支部, 一関支部, 二戸支部, 気仙支部, 釜石支部, 岩手県職労県庁支部・盛岡支部 合同旗開き, 花巻支部, 宮古支部, 久慈支部.